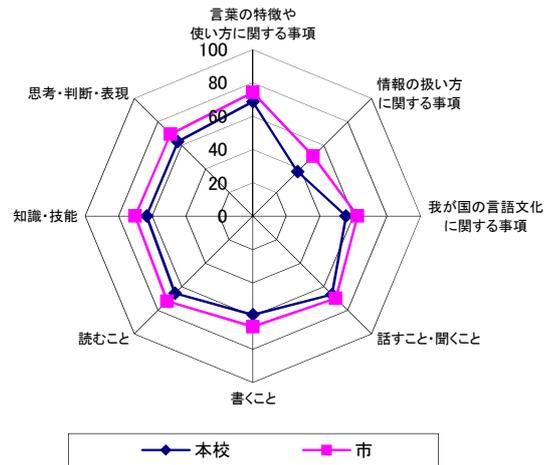


宇都宮市立西が岡小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	68.7	74.3	74.8
	情報の扱い方に関する事項	37.8	50.9	48.4
	我が国の言語文化に関する事項	55.6	62.4	60.8
	話すこと・聞くこと	66.7	69.9	69.7
	書くこと	59.3	66.4	64.6
	読むこと	65.6	72.3	71.0
観点別	知識・技能	63.3	70.1	70.0
	思考・判断・表現	63.3	69.5	68.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

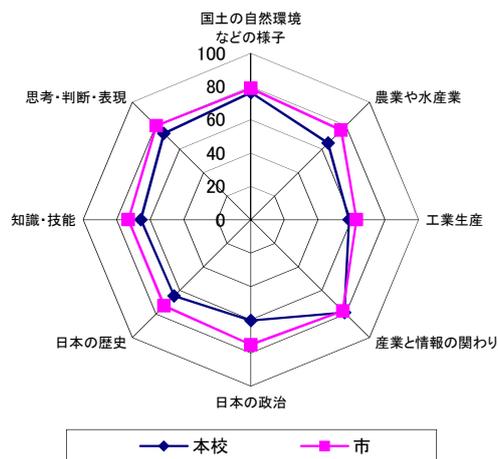
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○「漢字を読む」については、校内の平均正答率93.3%に対して、市の平均正答率は93.2%となり、0.1ポイント上回っている。 ●第5学年・第6学年の漢字を正しく書いたり、読みだりすることができず、校内の平均正答率は68.7%に対して、市の平均正答率74.3%と5.6ポイント下回っている。	・漢字を正確に書けるように、宿題や朝の学習の時間を活用して、補充プリント(宮っ子学力ステップアップシート等)を実施していく。 ・読書の時間を増やし、語彙力の向上を図る。 ・尊敬語や謙譲語を正しく使うことができるよう、日頃から丁寧な言葉遣いを意識させる。
情報の扱い方に関する事項	●情報と情報との関係について理解し、目的に応じて、文章を簡単にまとめて書く問題では、校内の平均正答率は37.8%に対して、市の平均正答率50.9%と、13.1ポイント下回っている。	・日々の新聞記事や掲示物をもとに、さまざまな話題を取り上げ、必要な情報を集めたり比較したりする場を意識的に設定する。 ・説明文では、必要な情報を見つけるために、文章中の言葉と図表などの言葉を線で結ぶなど、関係を視覚的に捉えて読むことができるようにする。また、それを関連付けて文章化することができる見られない児童が見られるため、与えられた情報を自分の言葉で文章化する場を授業中に設けるようにする。
我が国の言語文化に関する事項	●漢字の由来について理解できておらず、校内の平均正答率は55.6%に対して、市の平均正答率62.4%と6.8ポイント下回っている。	・漢字の由来について理解できるように、宿題や朝の学習の時間を活用して、補充プリントを実施していく。 ・漢字の音や部首について理解できるように、漢字スキルの学習の際にそれらに触れる。
話すこと・聞くこと	○互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、考えをまとめる問題では、校内の平均正答率26.7%に対し、市の平均正答率は25.4%であり、1.3ポイント上回っている。 ●話し手の目的に応じて話の内容を捉えたり、計画的に話し合い、考えを広げるための工夫を捉えたりすることができず、校内の平均正答率は66.7%に対して、市の平均正答率69.9%と3.2ポイント下回っている。	・教科に関わらず、発言を振り返ったり、話し合いの進め方について確認したりする場を大切にしていく。 ・話し手が伝えたい内容を捉えて話を聞くことができるよう、普段の授業から「聞くこと」を意識させるような授業展開を心掛ける。 ・大切なことを聞き逃さないように、メモを取りながら話を聞く習慣を身に付けさせる。
書くこと	○文章を書く問題では、校内の平均正答率75.6%に対し、市の平均正答率は72.0%であり、3.6ポイント上回っている。 ●自分の考えや、資料から読み取ったことを文章に書くことができず、校内の平均正答率59.3%に対し、市の平均正答率は66.4%であり、7.1ポイント下回っている。	・文章全体の構成や展開の仕方について理解を深めるため、作文を書く際には、構成メモを作成してから文章を書かせる指導を継続する。 ・授業の中でも、自分の考えや、資料から読み取ったことを文章に書く学習を取り入れ、書くことに慣れさせる。
読むこと	○物語の内容を読み取る問題では、校内の平均正答率84.4%に対し、市の平均正答率は79.7%であり、4.7ポイント上回っている。 ●文章全体の構成や論の進め方について読み取ることができておらず、校内の平均正答率65.6%に対し、市の平均正答率は72.3%であり、6.7ポイント下回っている。	・朝の読書の時間を確保したり、図書室を多く利用したりし、たくさん本に触れさせるようにする。 ・授業において、説明文を読むときには、文章の構成や論の進め方について確認する機会を意図的に設け、文章を整理したり、内容を読み取ったりできるようにする。

宇都宮市立西が岡小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	76.4	78.9	75.4
	農業や水産業	65.2	76.1	71.2
	工業生産	58.5	62.9	59.4
	産業と情報の関わり	78.9	77.6	59.7
	日本の政治	60.6	75.0	79.3
	日本の歴史	64.7	73.1	72.8
観点別	知識・技能	65.6	73.0	71.4
	思考・判断・表現	73.3	79.8	71.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

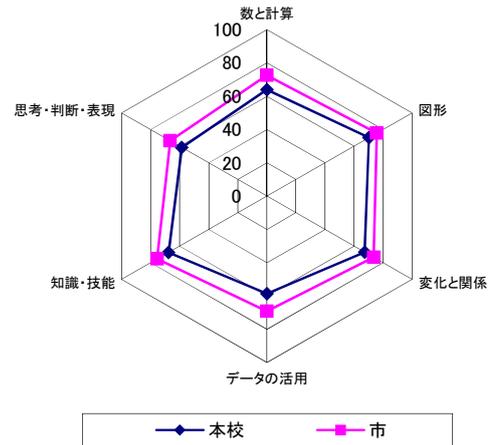
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	<p>○「日本の周辺の海洋名について理解する問題では、校内の平均正答率は88.9%に対し、市の平均正答率は87.3%であり、1.6ポイント上回っている。</p> <p>●日本の主な地形や環境について理解することができておらず、校内の平均正答率76.4%に対して、市の平均正答率は78.9%であり、2.5ポイント下回っている。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界の国や国旗について、地図帳を活用し理解を深めさせる。 ・日本の主な地形や名称、位置などについて理解することができよう、授業中に確認するだけでなく、プリントや復習ミニテストを実施する。 ・日本の環境やそれらに対応する暮らし方について、資料や映像を活用し理解を深められるようにする。 ・都道府県の位置を正確に把握できるよう、プリントや復習ミニテストを実施する。
農業や水産業	<p>●「日本の食料生産」について理解することができておらず、校内の平均正答率65.2%に対して、市の平均正答率は76.1%であり、10.9ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・普段の授業の中で、教科書や資料集の資料を取り上げ、読み取ることに慣れさせる。また、読み取ったことを新聞などにまとめたり発表したりすることで、理解を深められるようにする。 ・身近な工業製品に目を向けるような掲示物を活用したり、製品の製造地を探ったりする活動を積極的に取り入れたりして、知識の定着を図る。 ・自動車工場の作業工程について、資料や映像を活用し、理解を深められるようにする。 ・資料の読み取りが不得意な児童が多いため、社会だけでなく他教科でも意識的に資料を取り上げるようにし、内容を読み取ることに慣れさせる。
工業生産	<p>●「日本の工業生産」について理解することができておらず、校内の平均正答率58.5%に対して、市の平均正答率は62.9%であり、4.4ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットを利用するときの注意点について、社会だけでなく他の教科や朝の会、帰りの会なども活用し、指導していく。 ・スマホ・ケータイ宮っ子ルールを徹底し、学校でタブレットを使用する際にも情報モラルについて指導をする。
産業と情報の関わり	<p>○資料に着目して、ポイントカードの利点を考え表現する問題では、校内の平均正答率71.1%に対し、市の平均正答率は66.2%であり、4.9ポイント上回っている。</p> <p>●インターネットを利用するときの注意点について、校内の平均正答率86.7%に対し、市の平均正答率は88.9%であり、2.2ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法の非核三原則について、言葉だけでなく具体的な内容についても指導する。 ・国会や内閣、裁判所の役割について丁寧に触れ、ノートにまとめるなどして理解させる。 ・教科書や資料集だけでなく、インターネットの映像も活用し理解を深めさせる。 ・日頃から、時事ニュースを話題にして関心を持たせるようにする。
日本の政治	<p>●「日本国憲法」や「日本の政治」について理解することができておらず、校内の平均正答率60.6%に対して、市の平均正答率は75.0%であり、14.4ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・興味をもった歴史的な出来事や人物について、自主学习などを利用してまとめをするように助言し、探究心を一層高めることができるようにする。 ・歴史に関する本を活用し、歴史の流れをつかめるようにする。
日本の歴史	<p>○日本の歴史に関する問題では、校内の平均正答率64.7%に対し、市の平均正答率は73.1%であり、8.4ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・興味をもった歴史的な出来事や人物について、自主学习などを利用してまとめをするように助言し、探究心を一層高めることができるようにする。 ・歴史に関する本を活用し、歴史の流れをつかめるようにする。

宇都宮市立西が岡小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	63.9	72.6	73.1
	図形	70.3	75.7	74.7
	変化と関係	67.4	73.6	66.1
	データの活用	58.5	69.2	70.7
観点別	知識・技能	67.6	75.5	74.4
	思考・判断・表現	58.5	66.5	67.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
 (算数では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

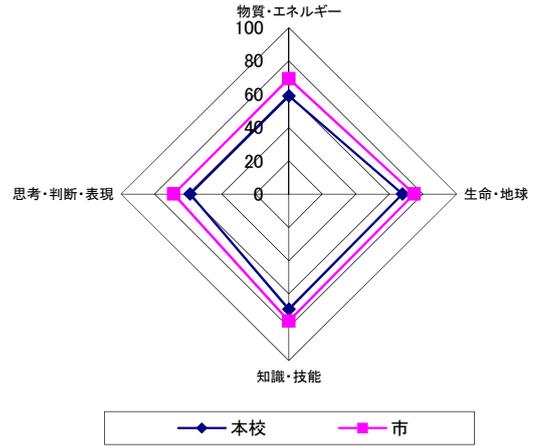
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> ●数と計算の領域では、校内の平均正答率63.9%に対し、市の平均正答率は72.6%であり、8.7ポイント下回っている。 ●特に、小数・分数の計算、文字の式が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・正確な計算ができるように、丁寧な机間指導を続ける。また、かがやきルームと連携を図り、個別指導を行う。 ・小数や分数の計算を定着させられるよう、朝の学習の時間や宿題等で復習プリントやA1ドリルを活用し、さかのぼり学習を行う。 ・問題場面を適切に理解できるようにするために、具体物を操作したり、絵や図を書いたりしながら、立式した理由を説明したり、話し合ったりする時間を設ける。
図形	<ul style="list-style-type: none"> ●図形の領域では、校内の平均正答率70.3%に対し、市の平均正答率は75.7%であり、5.4ポイント下回っている。 ●高さが図形の外にある平行四辺形の面積の求め方の問題は19.7ポイント、三角柱の展開図を組み立てたときに重なる頂点についての問題は、12.8ポイント市の平均を下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人差が大きいため、机間指導を通して、どの児童も正確な作図ができるようにする。 ・底辺と長さの関係など、図形のどこの長さに着目すると面積を求めることができるのか、必要な情報を選び出す活動を繰り返し練習することで、面積や体積の求め方の定着を図る。 ・線対称や点対称の条件を確認し、丁寧に作図の指導を行う。
変化と関係	<ul style="list-style-type: none"> ●変化と関係の領域では、校内の平均正答率67.4%に対し、市の平均正答率は73.6%であり、6.2ポイント下回っている。 ●表から面積と人数の割合を求め混み具合を考察する問題は、市の平均を6.6ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「単位量当たり」、「速さ」、「割合」を求める際は、今までに学習した基礎的内容を確認する場を定期的に取り入れる。 ・問題を解く際に、図や表を用いて考えさせ、イメージをもたせる。
データの活用	<ul style="list-style-type: none"> ●データの活用の領域では、校内の平均正答率58.5%に対し、市の平均正答率は69.2%であり、10.7ポイント下回っている。 ●表から平均値を求めたり、円グラフを読み取ったりする問題の正答率が市の平均を13～15%下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・円グラフやドットプロットが読み取れていないため、身の回りで使われているグラフや表を意識的に取り上げ、どのような効果があるのかを全員で考える場面を増やす。 ・最ひん値や代表値、平均値などの言葉の意味を再度確認し、問題に取り組ませる。

宇都宮市立西が岡小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	59.0	69.3	65.7
	生命・地球	67.8	74.7	77.8
観点別	知識・技能	69.2	76.2	76.4
	思考・判断・表現	58.8	68.7	68.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ●物質・エネルギー領域では、校内の平均正答率59.0%に対し、市の平均正答率は69.3%であり、10.3ポイント下回っている。 ●ふりこや電気のはたらき、物のとけ方の実験の方法に関する問題は、市の平均を大きく下回った。 	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観察や実験から得られた結果をもとに、考察する場面を丁寧に取り上げる。 ・実験の内容や方法を十分に理解させてから、実験を行わせる。 ・日常生活を関連付けさせ、実感を伴わせるようにする。 ・実験の予想、結果、考察、まとめを丁寧に行い、基礎基本の定着を図る。
生命・地球	<ul style="list-style-type: none"> ●生命・地球領域では、校内の平均正答率67.8%に対し、市の平均正答率は74.7%であり、6.9ポイント下回っている。 ○植物の葉のでんぷんをつくるはたらきと日光の関係を調べるために、対照実験を行う理由を推測する問題では、本校の平均正答率75.6%に対し、市の平均正答率は72.9%であり、2.7ポイント上回っている。 ○「月と太陽」の月の形の見え方が変わることについて調べる実験に関する問題では、本校の平均正答率86.7%に対し、市の平均正答率は81.3%であり、5.4ポイント上回っている。 ●日光が植物の生育に必要なことを、葉のでんぷんを作る働きの観点から記述する問題では、本校の平均正答率24.4%に対し、市の平均正答率は49.2%であり、24.8ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsの学習を総合的な学習や社会科にて実施し、その際に地球環境などへの理解を深めることができるように支援する。 ・日常生活と関連させながら、身近な自然への興味・関心を高めていくとともに、映像資料などを活用して視覚的に理解できるような授業の工夫を継続して行う。 ・理科の観察・実験を行う際には、前学年までの学習内容を確認した上で、比較したり、関係付けたりといった科学的な問題解決の仕方を身に付けられるようにする。また、記述問題を苦手としている児童が多いので、観察・実験を通して考えたり、分かったりしたことを自分の言葉でノートにまとめさせるなど、主体的に学ぶ時間を設ける。

宇都宮市立西が岡小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
学習意欲を高める指導の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ○興味を高める導入を工夫する。 ○体験的な活動や課題解決的な学習を積極的に取り入れる。 ○自力で課題解決にあたる時間を確保する。 ○状況に応じた学習形態を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1～5年生で、「勉強が好き」と肯定的に回答した児童の割合は56.9%～80.3%で、市の平均を下回った。6年生は、「勉強が好き」「教科の学習は好き」と肯定的に回答している児童の割合は、理科以外の全ての教科で市の平均を上回った。 ・どの学年も、学習に対する気持ちや態度について「進んで取り組んでいる」「学習していておもしろい、楽しいと思うことがある」「分かったり、できるようになったりすることはうれしい」と肯定的に回答する割合は、市の平均とほぼ同じだった。
分かる授業を目指した授業力の向上と基礎・基本の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ○「西が岡スタイル(つかむ、考える・つなぐ、まとめる、ふりかえる)」を取り入れた授業を実施し、学習内容の定着を図る。 ○個に応じた支援(児童の実態に応じた言葉掛け、学習方法、教材など)を工夫する。 ○単元や学期ごとに復習する場を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3～6年生で、「学校の授業がどの程度分かりますか」に肯定的に回答した児童の割合は、市の平均の±6ポイント程度でばらつきがあった。学習の仕方について「分かりやすくノートに書く」「何度も繰り返し練習している」と肯定的に回答する割合は、ほとんどの学年で市の平均を下回った。 ・6年生の学習内容定着度調査では、社会科の「産業と情報の関わりの領域」の問題で市の平均を1.3ポイント上回った以外は、国語・社会・算数・理科の全ての領域で市の平均を下回った。
家庭学習の習慣化を図り、基礎学力の定着を図る	<ul style="list-style-type: none"> ○学年毎に適切な分量・内容の宿題を提示し、家庭学習の習慣化を図る。 ○「学習チャレンジ週間」を実施し、家庭と連携して学習習慣の定着と意欲の向上を図る。 ○「リレー自主学習」に取り組むことで自主学習の活性化を図るとともに、友達の学習内容を参考にできるようにする。 ○学年・学級懇談会や学年だより等あらゆる機会を通じて、保護者の児童への言葉かけがやる気を育てることを知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「宿題をきちんとやっている」と肯定的に回答した児童の割合は約90%で、ほぼ市の平均と同じだった。 ・家庭学習についての質問では、目安としている時間以上学習している児童の割合が、平日は6学年中5学年が、休日は全学年が市の平均時間を下回った。休日に「ほとんど学習をしていない」と回答する児童の割合も約12%～42%と高い。 ・3～6年生で、家庭での学習について、「自分で計画を立てて取り組んでいる」「テストで間違えた問題は、もう一度やり直している」と肯定的に回答した児童の割合が、4学年中3学年が市の平均を下回った。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・学習意欲を高める指導の工夫により、児童は学習に面白さを感じたり、分かったりでできるようになることをうれしいと感じることができるようになり、学習意欲の向上につながった。次年度も継続して取り組んでいく。
- ・「西が岡スタイル」を定着させることで、児童の学習意欲が高まり、学習に対する気持ちや態度が良好になってきた。次年度は、学んだことを定着させるための手立てを講じ、基礎・基本の理解を深める。更に授業では児童の発言をつなぎ、考えを広げ、深める学習活動を充実させることで、児童が主体的に学ぶ態度を養う。
- ・市の調査の結果から、どの学年も宿題はきちんとやっているが、更に自主的に学習に取り組むことができない点に課題が見られる。それぞれの児童に必要な、個々の状況に合った学習を、教師からの助言や、友達の良い取り組みを参考にしながら見つけ、自分から学ぼうとする習慣を身に付けさせる。家庭学習強化週間を設けたり、授業参観日に合わせて家庭学習の例を提示したり、学校と家庭が連携して家庭学習の習慣を定着させる。